

企業だより

情報をお寄せください

「中国版帝国ニュース」では、皆様からの会社情報をお待ちしております。
会社名や所在地の変更、新商品の開発、催し物の開催、人事など本誌に掲載を希望される情報がございましたら、お気軽に弊社・情報部(電話082-247-5930)までご一報ください。

■新サービス■ さくら介護グループ 楽習(らくしゅう)療法を導入、サービスメニューを拡充



介護サービス事業所の運営、フランチャイズ展開を行う(株)さくら介護グループ(広島市中区、代表田本慎二氏=写真)は、このほど認知症リスクを軽減する脳のトレーニング療法「楽習(らくしゅう)療法」を導入、サービスを開始した。

「楽習療法」とは、(株)サングッドアソシエイツ(横浜市旭区東希望が丘238-1、代表三好宏岳氏)が主催する「楽習療法会」が推進している、認知症リスクを軽減する総合プログラム。当社の社員が学習療法会の指導を受けて同会認定の療法士を育成。さくら介護グループのFC事業所である広島シュールが運営する広島市西区横川町の施設で、楽習療法を開催、指導する。

プログラムは、最先端の脳科学者として著名な篠原菊紀諏訪東京理科大学教授の指導のもと開発された。内容は、音読や簡単な計算、記憶力テスト、積み木などで、脳のトレーニングによって認知症が発症しづらい脳をつくることに加え、認知症を回避する生活習慣を指導サポートする。

「導入にあたっては、当社のスタッフが半年間ほど効果を検証。当社が提供するサービスメニューとして適切と判断した。利用者の脳の老化防止に少しでも役立てばと考えている。また、当社にとっても、さくら介護グループのサービスメニューとして独自性を打ち出せるうえ、売り上げの増加につながる。療法士の資格取得や指導などを通して、現場で働く社員の意欲向上にもつながる。」(田本社長、以下同)

当社は、2000年頃から介護サービス事業に本

格参入し、主にFC展開により事業所を拡大してきた。事業所展開においても独自性を発揮。当社のFCの約40%が接骨院であり、このほか歯科医や温泉旅館などもFCとして加盟している。現在、中国地区を中心として、北海道から沖縄まで全国に直営、FCを含めて145カ所の事業所を展開している。

介護サービスが対象としているシルバー市場は、少子高齢化の進展とともに拡大している。公的介護保険市場だけでも2002年の5兆円から2015年には12兆円へと拡大が見込まれている。

「市場規模は、確実に拡大していくとみている。しかし、資金力のある企業も多数参入しており、今後は、このような事業者との競争が激化していくことが予想される。このために、現在取り組んでいるのがサービスメニューの拡充。従来の公的介護保険サービス以外のメニュー開発に力を入れ、当社の独自色を出すことで差別化を図っていきたい。」

すでに、アメリカに関連会社を設立し、サービスメニュー開発を開始しており、今回の導入もメニュー拡充の一環である。

今後は、さらに療法士の育成を進めて、「楽習療法」のサービス提供できる事業所を拡大する計画である。価格もワンコイン程度の低価格で提供していく予定。

(株)さくら介護グループ、広島市中区加古町13-12、代表田本慎二氏、資本金4200万円、従業員15人、電話:082-248-1112、企業コード:600472607)